

インターネット調査にみる

「現代女性のアートの楽しみ方」

美術館に美術館に3ヶ月に1回以上行く人は2割強
ポピュラーな楽しみ方は「絵画鑑賞」(78%)。ハイレベルな楽しみ方は「美術評論書」(20%)と「創作」(17%)
美術館に行く頻度が高い人ほど様々な芸術活動への興味が高い

2003年2月25日

ポーラ文化研究所
(担当:阿保真由美)

■ はじめに

ポーラ文化研究所では、昨年末、20代から60代までの女性を対象に、美術・ファッション・化粧品に対する関与度・嗜好性を調査した。その結果を3部のレポートにまとめる予定であるが、本レポートはその第3弾である。

■ アート関連調査レポートのタイトルと内容

- ①「ファッションとメイクでわかる
アート、カルチャーに関心がある人はどんな人2003.2.発行）
アート、メイク、アートの嗜好性を軸にクラスタ分類し、女性をアートとの関わりを軸にタイプ分けしたレポート。
- ②「女心を捉えるアート&カルチャ2003.2/4発行）
カルチャー、アートの分野で、女性たちの支持が高いのはどのような分野かがわかるレポート。
- ③「現代女性のアートの楽しみ方2003(年2月25日発行)
女性のアートの楽しみ方として、ポピュラーなものとは何かを分析したレポート。

■ 調査の基本設計

今回のレポートを含め、3つのレポートはすべて、下記の調査結果に基づいている。

- | | |
|---------|---|
| ■調査目的 | アート、ファッション、メイクの嗜好性調査と、クラスタ分析による女性のタイプ分類 |
| ■調査実施期間 | 2002年11月13日(水)～14日(木) |
| ■調査方法 | インターネットサーベイ
(電子メールで告知、WEBで回答) |
| ■調査対象者 | 関東地方在住の女性モニター
20代～60代 |
| ■有効回答数 | 1061名 |

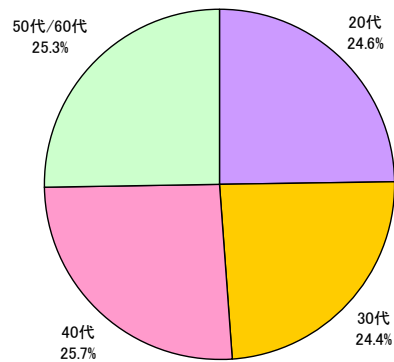
回答者のプロフィール

有効回答数 1061 人の 20 代～60 代女性パネラーを、4 つの年代区分で集計した。区分は下記の通りである。20 代 30 代 40 代 50 代以上と 4 区分とし、各区分の N 数が 250 人前後で均等になるようにした。
また、インターネット調査という特性上、パネラーとして登録されているのは、「比較的にアクティブなマインドを持つ女性」の割合が高いと言われている。

1) 年代構成

若干 40 代の割合が高いが、各区分ともほぼ同数である。

年代別(N=1063)



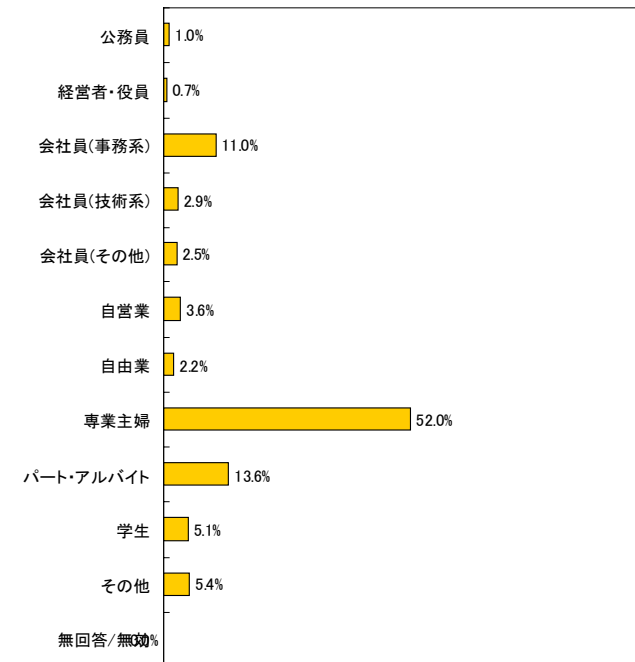
2) 職業

専業主婦の割合が 52% と過半数である。

働いている人の割合は約 43% である。

この数値は 2000 年の国勢調査にみる女性の労働力率、48.2% と比較すると 5% ほど高い。

職業別(N=1063)



■ 調査結果－1 <サマリー編>

1. 分析結果の要旨

このレポートは、下記の調査項目に対する回答の結果とそれらの考察をまとめたものである。

調査結果から次の3点についてまとめた。

1. 美術館や展覧会に行く頻度

美術館に「月に1回以上」「2～3ヶ月に1回」行くと回答した人を「よく行人」と考えると、美術館に行く頻度が高い人は全体の約2割。

2. アートとの関わり

アートとの関わり方を尋ねる質問に対して、「非常にそう思う」「ややそう思う」を回答した人の割合に着眼してグループ化すると、下記ようになる。

★アートの楽しみ方として、

- ①50%以上の女性が選択したものは「鑑賞」
- ②40%以上の女性が選択したものは「お気に入りのを見つける」
- ③30%以上の女性が選択したものは「美術番組」「美術史」
- ④20%前後の女性が選択したものは「美術評論書」「創作活動」

「鑑賞」は比較的ポピュラー。
ハイレベルな活動を行う人も2割いる。

3. 「美術館に行く頻度」と「芸術への価値観」の関連

「美術館に行く頻度」が高い人は、「アートとの関わり」も高い。

2. 分析に使った設問について

「美術館や展覧会に行く頻度」は6段階の頻度を提示して尋ねている。

「アートとの関わりを測る項目」は13項目の設問で構成した。

アートとの関わりを尋ねた質問

美術作品を見るのが好き
興味のある美術展には足を運ぶ
旅先でも美術館や博物館を訪れることが多い
好きな芸術家がいる
素晴らしい芸術作品はお金を払っても観る価値がある
自分も絵画や陶芸など創作活動をやっている
素敵な美術品を自宅に飾っている、また飾りたい
海外の美術館や博物館に行ったことがある
画集やカタログを持っている
美術書（評論・解説）をよく読む
有名なアーティストの作品はぜひ見ておきたい
美術に関するテレビ番組は見るほうだ
美術史や文化史に興味がある

調査結果-2 <データ編>

1. 美術館や展覧会に行く頻度

美術館や展覧会に「よく行く人」は2割強。「時々行く人」は4割強、「ほとんど行かない人」は3割強の比率。

「あなたはどれくらいの頻度で美術館や展覧会などの催し（画廊やギャラリーでの催しも含む）に行きますか？」という問いに対し、下記の6項目中から回答を選択してもらった。

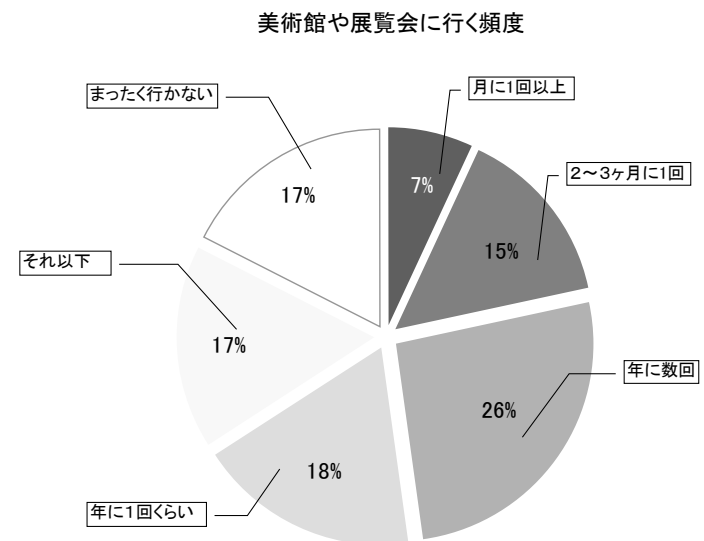
- 「月に1回以上」
- 「2～3ヶ月に1回」
- 「年に数回」
- 「年に1回くらい」
- 「それ以下」
- 「全く行かない」

結果は右の図の通り。

「月に1回以上」行く人と「2～3ヶ月に1回」行く人を「美術館によく行く人」と見ると、「美術館によく行く人」は全体の22%である。

逆に「年に1回以下」と「全く行かない」人を合わせると34%。これらの人を「美術館にほとんど行かない人」とみなすと、「美術館にほとんど行かない人」は全体の34%となる。

また、「年に数回」と「年に1回くらい」と回答した人を「美術館に時々行く人」とみなすと、「美術館に時々行く人」は全体の44%である。



2. アートとの関わり

50%以上の女性が楽しむポピュラーな楽しみ方は「鑑賞」、
 少し通好みの「アーティストへの関心」「カタログ・画集」「テレビ番組」、
 20%の女性が楽しむハイレベルな楽しみ方は「美術評論」「創作活動」

前述した13項目の「アートへの関わり」を測る設問を提示し、
 非常にそう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 全くそう思わない

の中から、あてはまるものを選択してもらった。

その結果、アートの楽しみ方として、

- ①50%以上の女性が選択したもの＝「鑑賞」
- ②40%以上の女性が選択したもの＝「お気に入りのを見つける」
- ③30%以上の女性が選択したもの＝「美術番組」「美術史」
- ④20%前後の女性が選択したもの＝「美術評論書」「創作活動」

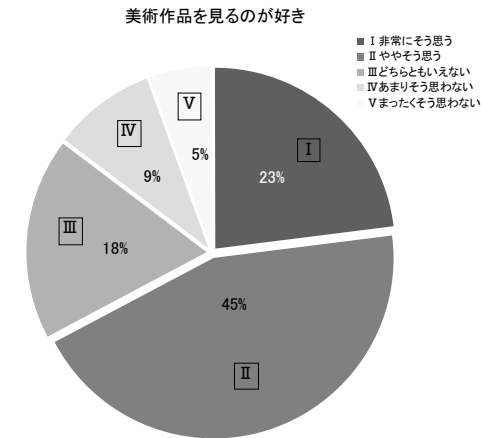
という傾向が見られた。

①アートの楽しみ方として50%以上の女性が選択したものは「鑑賞」

「美術作品を見るのが好き」「有名アーティストの作品は見ておきたい」「芸術作品はお金を払っても見る価値がある」「興味のある美術展には足を運ぶ」「旅先でも美術館や博物館を訪れることが多い」の5項目は、50%以上の女性が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した、比較的支持率が高い項目。

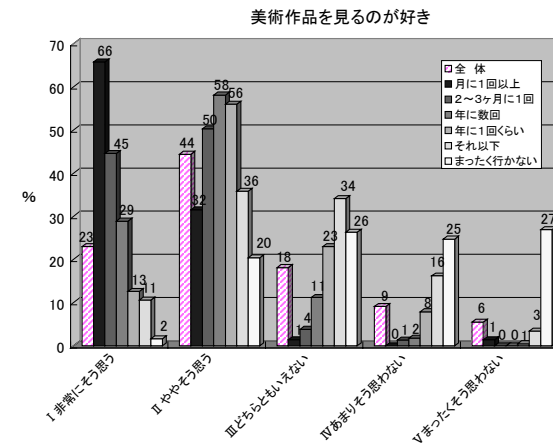
これら支持率が高い項目は、いずれも「鑑賞」的な要素を持つ、芸術とのかわり方である。

◇「美術作品を見るのが好き」という人は全体の78%

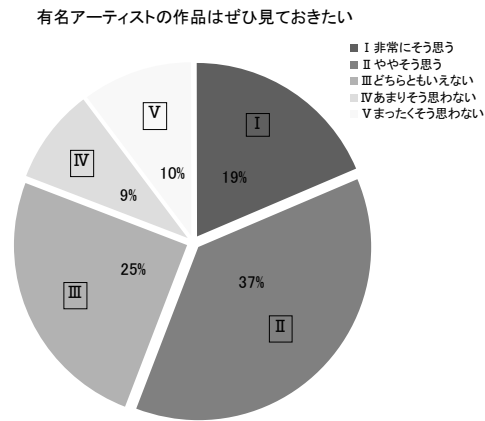


<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。

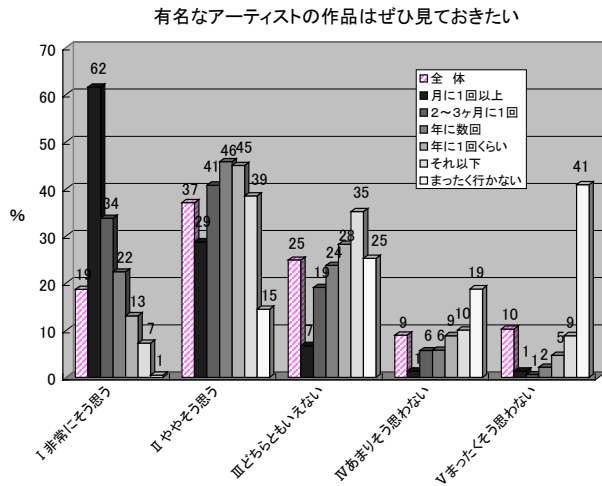
(各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



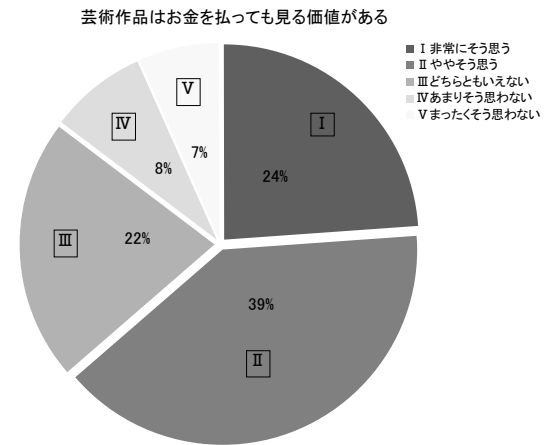
◇「有名アーティストの作品は見ておきたい」人は56%



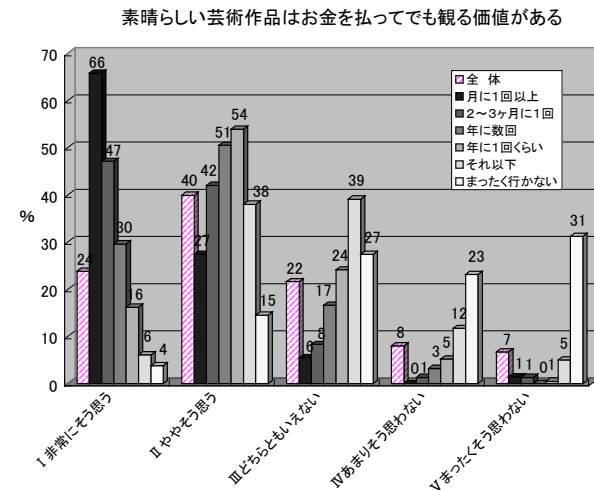
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



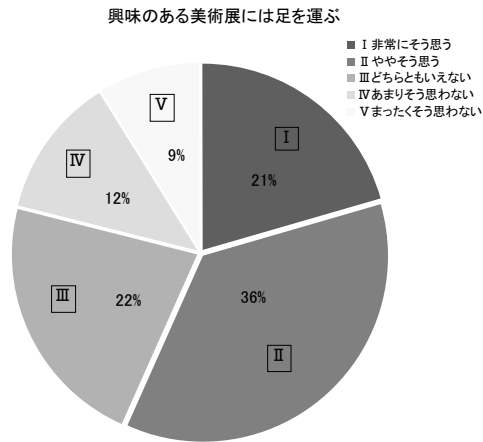
◇「芸術作品はお金を払っても見る価値がある」人は63%



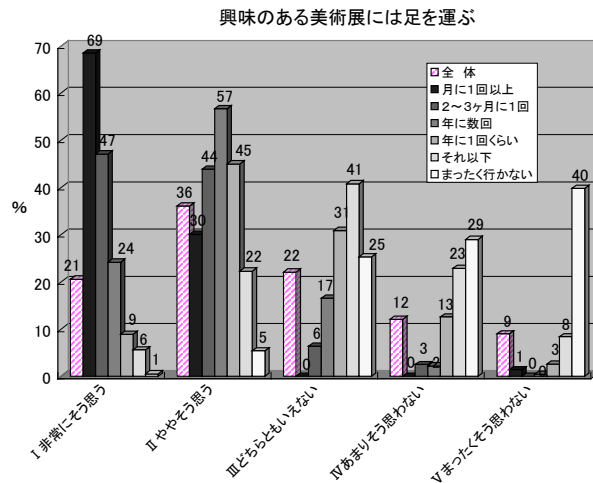
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



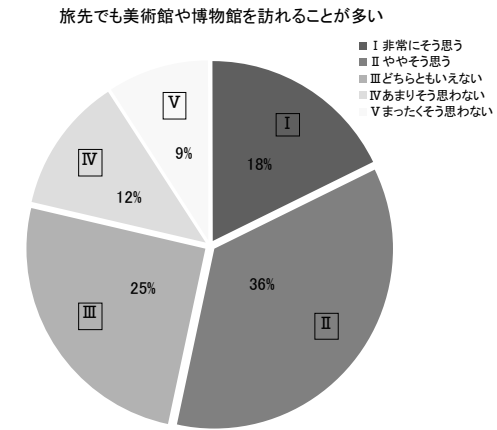
◇「興味のある美術展には足を運ぶ」人は57%



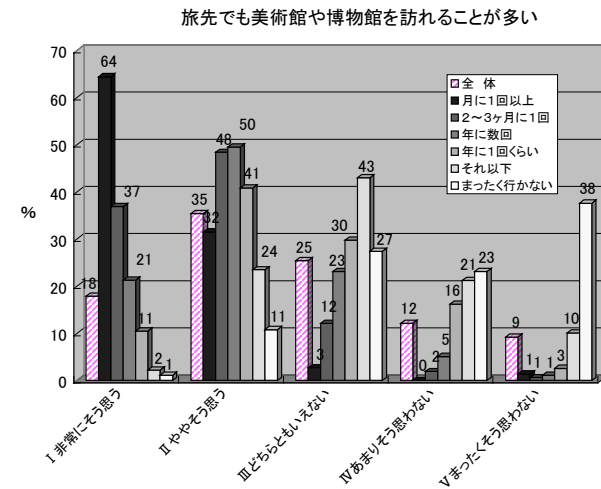
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



◇「旅先でも美術館や博物館を訪れることが多い」人は54%



<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



②アートの楽しみ方として40%以上の女性が選択したもの
 =「お気に入りを見つける」

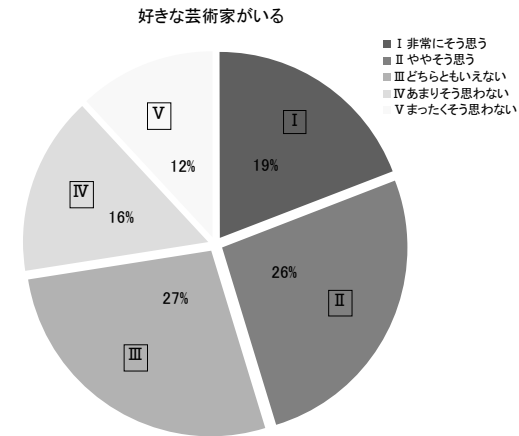
40%台の支持率がある芸術活動は、「好きな芸術家がいる」「自宅に美術品を飾りたい」「画集やカタログを持っている」「海外の美術館や博物館に行ったことがある」の4項目。

これらは共に単に「鑑賞しに行く」よりも一歩深い、芸術への関与手段である。

「好きな芸術家がいる」「自宅に美術品を飾りたい」「画集やカタログを持っている」の3つは、自分にとっての「お気に入り」を見つける行為、もしくは手元に美術品そのものや写真を身近に置きたいというキーワードでくれそうだ。

「海外の美術館や博物館に行ったことがある」は、先ほどの3つとはニュアンスが異なり、「鑑賞」の延長である。しかし、海外旅行は国内旅行ほど頻繁には行かない。限られた日程の中で、観光先として「美術館」を選択するのは、興味の度合いが通常の鑑賞と比べて高いのではないだろうか。

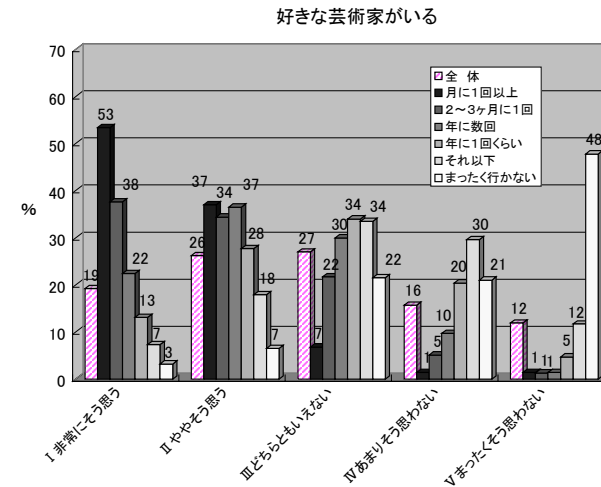
◇「好きな芸術家がいる人」は45%



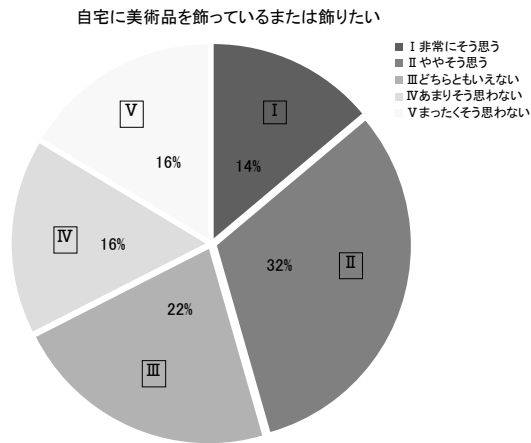
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。

(各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)

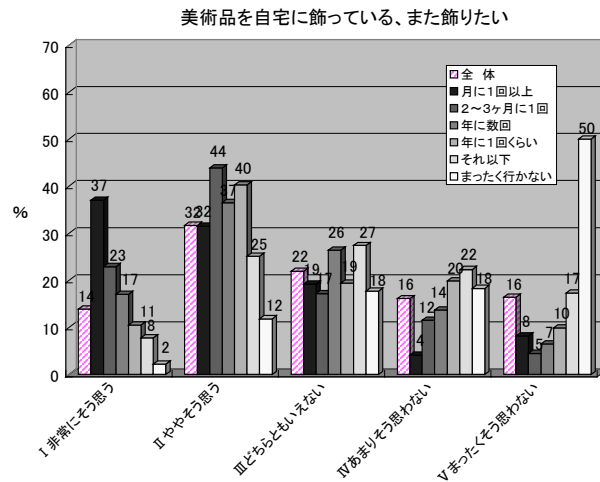
(例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



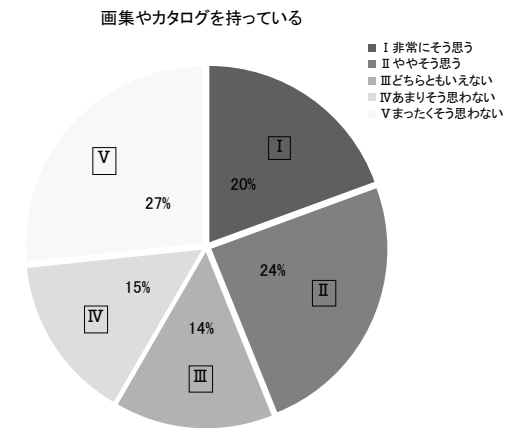
◇「自宅に美術品を飾っているまたは飾りたい」人は46%



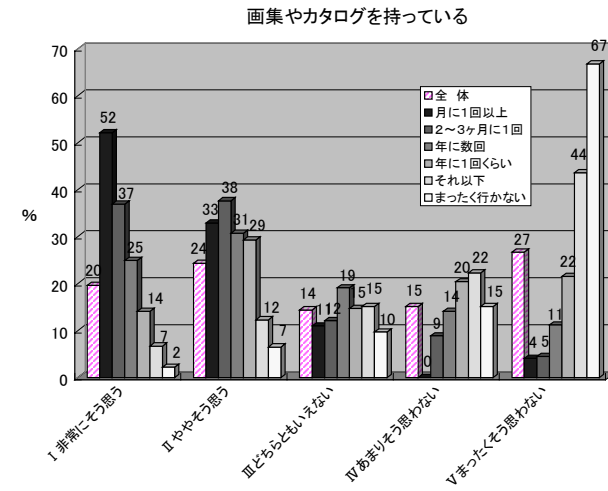
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



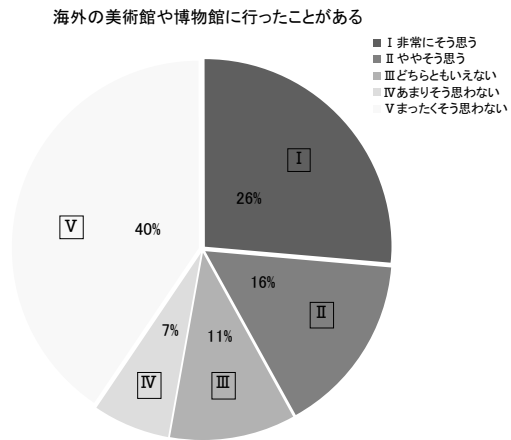
◇「画集やカタログを持っている」人は44%



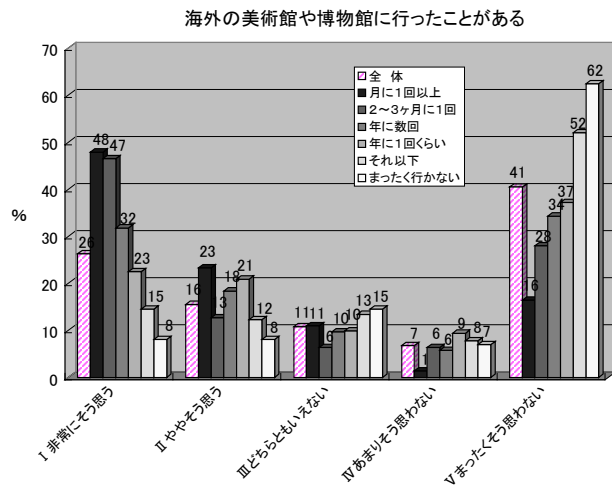
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



◇「海外の美術館や博物館に行ったことがある」人は42%



<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)

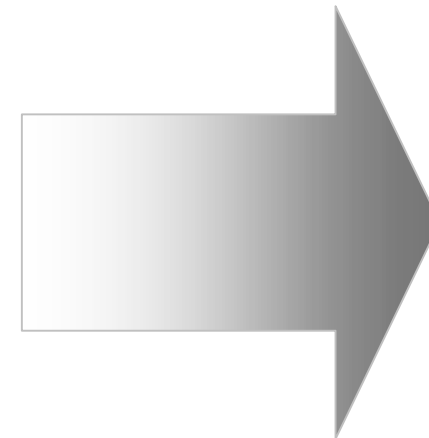


③ 「アート」の楽しみ方として30%以上の女性が選択したもの
＝「美術番組」「美術史」

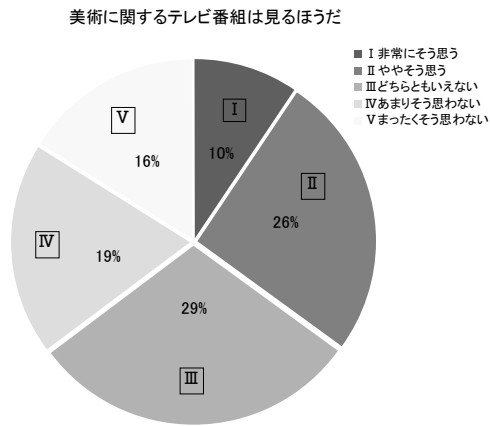
全体の約30%の人が、「美術番組」や「美術史」に関心を持っている。

エンタテインメント性が強いテレビ番組が多い中で、「美術番組」は「教養」の要素が強い番組である。また、「美術史」や「文化史」も「教養」「学習」の要素が高い。

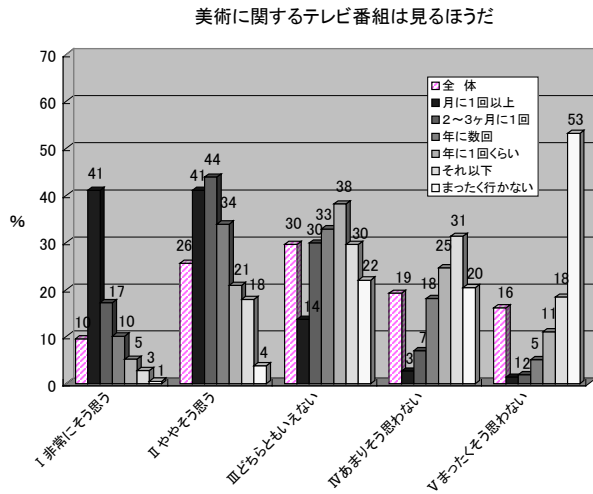
この調査結果から、芸術に対して「趣味・教養」的関わりを持てる人は全体の約3割程度であると予測できる。



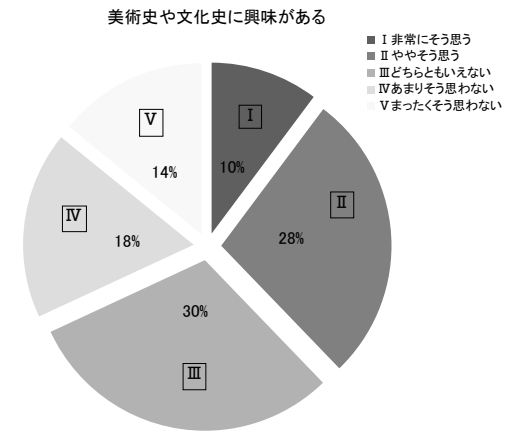
◇「美術番組を見る」女性は全体の36%



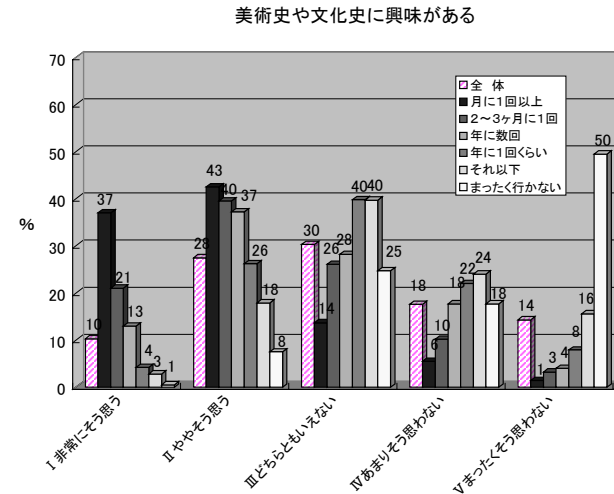
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



◇「美術史や文化史に興味がある」女性は38%



<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)

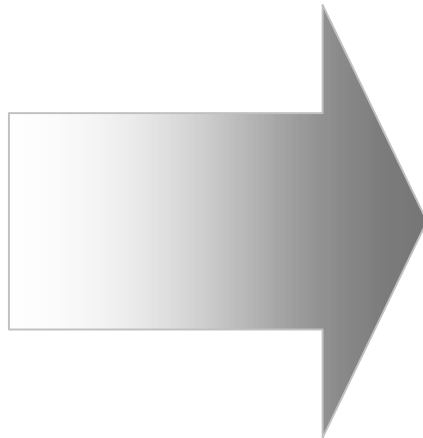


④ 「アートを楽しむ方として20%前後の女性が選択したもの
＝「美術評論書」「創作活動」

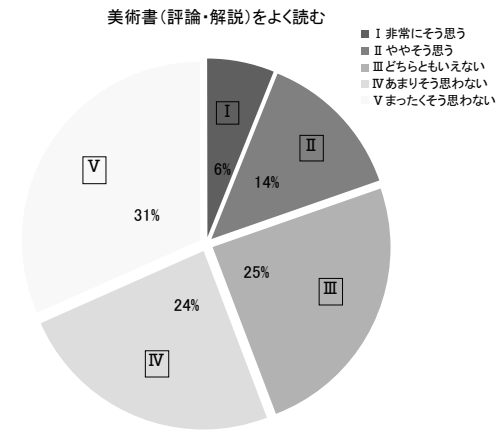
「美術評論を読む」と、「創作活動をする」人はそれぞれ全体の約2割程度であった。

「美術評論書」は、趣味・教養の範疇を超えて、学術的な要素を含んでいる。30%台の支持があった「テレビ番組」や「美術史」よりもさらに、芸術への関与度が高いと思われる。

自ら「創作活動をする」ことは、芸術への関与度が非常に高い項目。ここ数年、陶芸ブームといわれているが、何らかの創作活動を趣味や仕事とする人は、全体の2割弱である。



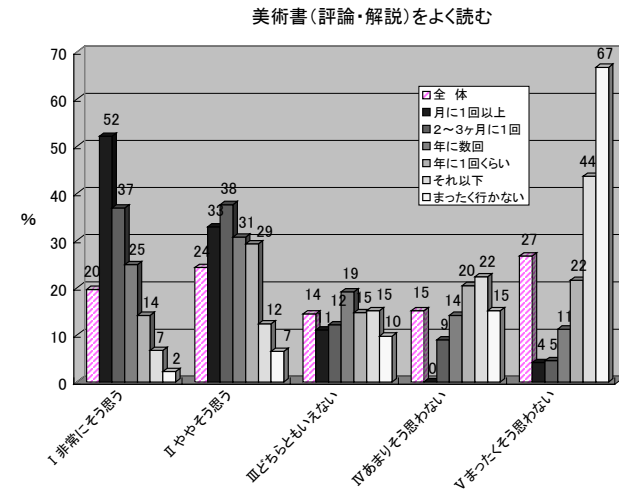
◇「美術書(評論・解説)をよく読む」人は20%



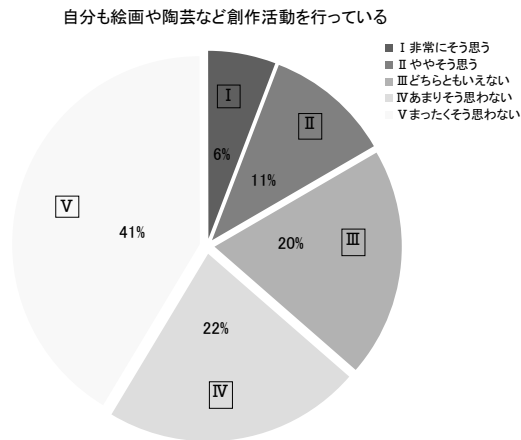
<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。

(各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)

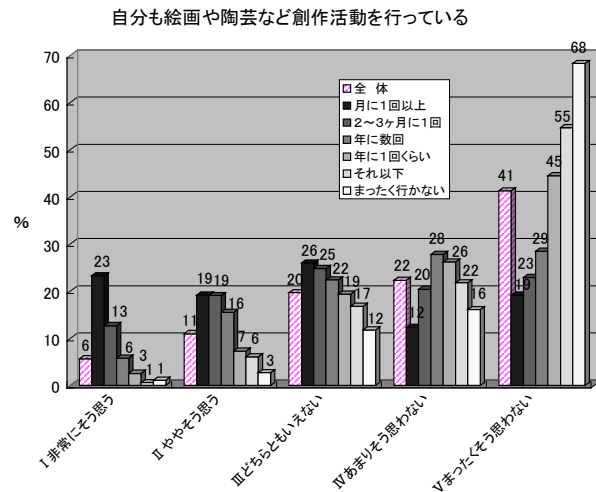
(例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



◇「自分も絵画や陶芸など創作活動を行っている」人は17%



<参考> 「美術館へ行く頻度別」のデータは下図の通りである。
 (各系列は母数が異なるが、系列ごとの母数を100%として表現している)
 (例えば「月に1回以上」という系列は、74人が100%となる)



3. 「美術館に行く頻度」と「アートとの関わり」の関連

「美術館へ行く頻度が高い女性」ほど、様々な芸術活動への興味が高い。しかし、「美術館へ行く頻度が低い人」が全くアートに関心がないという訳ではない。「美術館へ行く頻度がさほど高くない女性」も、「鑑賞」など比較的ライトなアートとの関わりを楽しむ傾向がみられる。

前項で「アートとの関わり」を図る項目と「美術館へ行く頻度」とのクロス集計を、棒グラフで提示した。美術館へ行く頻度が高い人は、どの項目についても、「非常にそう思う」「ややそう思う」など、関心を示す回答率が非常に高いということがわかる。

「美術館へ行く頻度が高い女性は非常にアートへの関心が高い」と述べたが、美術館へ行く頻度が低い女性たちがアートに関心がないというわけではない。

なぜならば、「月に1回以上」美術館に行く人は全体の7%、「月に2~3回」美術館に行く人は、全体の15%。これらの女性たちを合計しても、22%で、全体の中での寄与率は低いからである。

仮に彼女たちが全員「美術作品を見るのが好き」と回答したとしても、全体のYES率「78%」に、はるかに及ばない。残り50%以上のYESは、美術館に行く頻度がさほど高くない女性たちなのである。

以上